

タマネギの球の肥大

野菜花き試験場

長野県のタマネギ栽培は 10 月中～下旬に定植し、冬を越して 6～7 月に収穫するのが一般的です。越冬前の植物体が大きすぎれば花が咲いて食用にならず、植物体を小さくするために定植時期を遅らせると根張り不足のため凍み上がりで枯れてしまいます。越冬前の植物体を、いかに適当な大きさにするかが栽培のコツです。

ところで、タマネギの球は何がきっかけで肥大を始めるのでしょうか？ 苗の段階から肥大を始めているのであれば、定植の時に球ができていてもいいはずですが。ところが苗をみるとネギの苗と同様に球はできていません。

きっかけになる条件は日長と気温です。春は日が徐々に長くなっていき、一定以上の長さになると肥大のスイッチが入ります。気温が 15～20℃の範囲で球の肥大が旺盛に進みます。日が長くなっても気温が低ければ大きな球にはなりませんし、また、気温が適温であっても日が長くなければ球はできません。

品種によって肥大が始まる日長と適当な気温が異なり、長野県で栽培されているタマネギ品種より北海道で栽培されている春植えタマネギ品種の方が長い日長が必要です。品種によって作る作型が異なり、品種の使い分けが必要です。

本県においてタマネギが良くできる年は、春の天候が平穏な年です。今年はタマネギが豊作であることを期待します。



収穫前のタマネギ

担当者	塩川 正則	電話番号	0 2 6 3 - 5 2 - 1 1 4 8
-----	-------	------	-------------------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[野菜花き試験場ホームページへ](#)